

2018年8月ドミニカ共和国内政、外交、経済定期報告

2018年9月27日

在ドミニカ共和国日本大使館

1 内政

(1) 6日、与党PLD（ドミニカ解放党）の政治委員会が開催され、ラダメス・カマーチョ下院議員（メディーナ大統領派）がルベン・マルドナド現下院議長（フェルナンデス前大統領派）に代わり、16日より下院議長への就任が決定。

(2) 7日、2020年大統領選におけるメディーナ大統領の連続再選にとり重要とされる政党法は、最終的に野党第一党PRM（現代革命党）が賛成に回り、下院で可決成立。13日、メディーナ大統領が同法を公布した。

(3) 8日、メディーナ大統領は政権公約の一つであるサントドミンゴ地下鉄2号線B区間開通の竣工式に出席。

(4) 12日、反汚職市民運動「緑の行進（Marcha Verde）」が首都サントドミンゴにおいて、伯オデブレヒト社汚職事件を始めとする汚職事件及び政治家の無処罰に抗議する大規模デモを実施。

(5) 19日、メディーナ大統領に対する単独TVインタビューが放送、メディーナ大統領は2020年大統領選における連続再選、与党PLD内の対立、汚職問題、6年にわたる政権の成果等につき発言。「2020年の大統領選に向けて連続再選を目指すかどうかは自分の中でもう決定しているが、来年3月にはPLD執行部が詳細を明らかにするであろう」と述べた。

(6) 21日－22日付当地主要紙オイ紙は、Mark Penn社（米国の世論調査会社）及びSINニュース社（当地メディア）が共同で実施した市民生活及び政権評価等に関する世論調査結果を掲載。主なポイント以下の通り。

ア メディーナ大統領の政権運営に満足を示す国民は、過去二年間で大きく減少し、現在の同大統領の支持率は52%。しかしながら、2020年大統領選における与党PLDの大統領候補としてはメディーナ大統領が24%の支持で筆頭に挙げられている（但し、現時点では憲法により連続再選は禁止されている）。

イ 主要な政治家に対するプラスのイメージでは、セデーニョ副大統領（フェルナンデス前大統領夫人）が、最も高い61%。

ウ 当国の主要問題は、過去の調査に引き続き、犯罪（治安問題）が他を引き離し39%で一位。

(7) 26日、フェルナンデス前大統領が首都サントドミンゴのオリンピックセンターにおいて、2019年に実施予定である与党PLDの大統領予備選（大統領本選は2020年）に立候補を表明する式典を実施。

(8) 27日、移民局は不法移民正常化計画の手続きの延長を行わない旨発表、なお同手

続きは26日をもって終了。

2 外交

(1) 中国

ア 1日付当地主要各紙がFu Xinrong（傅新蓉）当地中国大使館臨時代理大使（前中国通商事務所長）の8月上旬の離任を報道，両国政府が習近平国家主席の招待によるメディーナ大統領の訪中の準備に注力していると発言。また，アリエル・ヒメネス大統領府開発政治担当次官により調整される対中国経済課が大統領府内に近く開設予定。

イ フレイ元チリ大統領（現アジア太平洋地域特派大使）が当国を訪問，8日，バルデス中銀総裁とチリ・中国・ドミニカ（共）関係につき会談した他，9日，外務省コンベンションセンターにおいてチリ・中国他アジア地域関係に係る講演を行いバルガス外相と意見交換を実施。

ウ 21日，Zhang Run中国大使がバルガス外相に信任状写しを提出。

エ 24日，Zhang Run中国大使を始めとする各国の新大使がメディーナ大統領に信任状を奉呈。

オ 27日付当地主要紙リステイン・ディアリオ紙は，ブリウニー・ガラビート・セグーラ駐中国ドミニカ（共）大使のインタビュー記事を掲載，同大使は中国人観光客の招致と対中輸出の促進に優先的に取り組む考えであると報じた。

カ 30日付当地主要紙リステイン・ディアリオ紙は，今般，信任状捧呈を終え当国初の中国大使に着任したZhang Run中国大使の寄稿を掲載。

(2) 米国

ア 1日，米民主党政下院議員団が当国を訪問し，コプリー当地米国大使館臨時代理大使らと共に，メディーナ大統領を表敬訪問した他，ルベン・マルドナド下院議長とハイチ移民問題等につき話し合い，ミルトン・ゲバラ憲法裁判所長官らとも会合。

イ 30日，ロビン・バーンスタイン駐ドミニカ（共）米国大使が着任，コプリー当地米大次席らに迎え入れられた。同大使は，当国での優先事項は教育，貿易，二国間関係の強化であると述べた。

(3) コロンビア

7日，メディーナ大統領はコロンビアを訪問し，ドゥケ・コロンビア大統領の就任式に出席。

(4) パナマ及びパラグアイ

バルガス外相は，12日にパナマを訪問し同国政府高官らと会合した後，14日にパラグアイを訪問，15日にアブド・ベニテス・パラグアイ大統領の就任式に出席した。

(5) ハイチ

18日，ドミニカ（共）西部エリアス・ピニャ県のハイチ国境において，ハイチ人と国境警備隊（CESFRONT）の間で衝突が発生，ドミニカ（共）人1名及びハイチ人3名が負傷

した。同衝突直後、両国の関係当局の間で協議が行われ事態は沈静化した。

(6) メヒア大臣のアジア共産主義国訪問

26日付ドミニカ(共)大統領府プレスリリースは、メヒア地域統合政策担当大臣(注:無任所大臣、左派の小政党「統一左翼」の事務局長を務め、主として社会主義国との関係強化を担当)を長とする政府派遣団が、アジア諸国との関係強化のためにベトナム、中国及び北朝鮮を数週間訪問する旨報じた。

(7) 大使館新設他

28日、バルガス外相は、ドミニカ(共)の外交関係に関し、ベトナム、ボリビア、トルコ及びアンティグア・バーブーダに大使館を新設する、またナイジェリア等のアフリカ諸国との外交関係樹立に向けた準備を進めていると発言。

(8) 中米議会の開催

27日-30日、当国外務省において、中米議会が開催、アルマグロOAS事務局長、セレスICA事務局長(元グアテマラ大統領)、トリホス元パナマ大統領、アレマン元ニカラグア大統領の他、当国からフェルナンデス前大統領、メヒア元大統領、バルガス外相、ラフル中米議会議長他が出席。

3 経済

(1) 1日、中銀は、本年上半期の成長率が対前年度比で6.7%を記録、同成長率はラ米カリブ地域で最高値である旨発表。なお、本年6月の成長率は、7.3%を記録。

(2) 1日、マリウス・デ・レオンCEI-RD(ドミニカ輸出投資センター)長官は、本年上半期の輸出額が47.5億ドルに上り対前年度比で9.8%増加したと発表。

(3) 22日、エネルギー鉱山省が3年にわたり実施してきたドミニカ(共)の炭化水素調査の結果を発表、6つの埋蔵地帯で石油採掘が可能であるとし、イサ・エネルギー鉱山大臣が当国における石油探査・採掘権の入札を間もなく実施すると述べた。

(4) 29日、サンタナ経済企画開発大臣は、2013年に40%であった貧困率が2017年には25.5%まで減少したと発言。

(別添1) 経済指標

(了)